

ハートを  
こがせ!

Vol.02

福井県立藤島高校  
かるた同好会

部員ゼロからの再興  
19年ぶりに「全国」の  
キップをつかんだ同好会

部室も顧問もナシ。  
自分たちの力と責任で  
高い目標を目指す!



50枚の札を巡って  
集中力と瞬発力で戦う  
畳の上の格闘技

2

1 競技かるたは、百人一首100枚の字札（下の句が書かれた札）のうち、25枚ずつを自陣と敵陣に並べて行われる。詠み上げられた上の句を聞いて、下の句の札を自陣・敵陣から素早く取っていく。詠み手は100枚の札の中から詠んでいくため、詠まれた札が自陣・敵陣どちらにも存在しない場合がある。

2 団体戦の多くは5人制。部員数が5人に満たないと、不足人数分は不戦敗扱いとなってしまう、不利な戦いを強いられる。2014年の全国大会出場時の同校のかるた同好会の部員数は3年生3人、2年生2人、1年生2人の総勢7人。「部員数5人以上」は同好会存続の鍵でもある。

3 藤島高校かるた同好会の練習場所は、教員用の休養室。備品置き場も兼ねているため、飛ばされた札が物陰に隠れ、練習が中断してしまうこともしばしば。



1



3



5

空き部屋に運んだ古畳の上から  
目指すは「かるた甲子園」!

福井県立藤島高校かるた同好会は、2014年、滋賀県大津市の近江神宮で毎年開催される「全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会（「近江神宮大会」「かるた甲子園」などと呼ばれる）」に、19年ぶりに出場した。12年4月の時点で、同好会の部員数はゼロだったが、3人の新生が入会をきっかけに再スタートさせ、その2年後、ほとんどの部員が他部と兼部しながら、見事に全国大会出場の栄誉を手にした。「畳の上の格闘技」とも言われる競技かるたに魅せられ、同好会を復活させたメンバー、そして後輩たちの熱いハートに迫る。

4 競技かるたには、審判はいない。同時に札を取った時は、競技者同士による話し合いで決着をつけるが、どちらも譲らないままでは会場全体の進行を滞らせてしまう。我を通し過ぎては皆の迷惑になり、弱気一辺倒ではチームの勝利が遠のいてしまう、難しい競技だ。

5 全国大会に出場したとはいえ、位置付けはあくまでも同好会。正規の顧問もおらず、部室もない。続けるのも解散するのも生徒の自由というわけだ。つまり、同好会の運命は全て生徒のやる気に懸かっているのだ。

(写真4・5は、2014年近江神宮大会)

ハートを  
こがせ!

Vol.02

福井県立藤島高校

かるた同好会

才能が問われる

勝負の世界で

「自分の目標」に挑む



### 音になる前の音を 聞き取る集中力が必要

元部長の鈴木さん、五十嵐さん、西野さんは共に競技かるたの経験者で、同じ中学校出身。「憧れの藤島高校で、一緒にかるたを続けられたらきっと楽しいはず」（鈴木さん）という思いで、練習をスタートさせた。

「最初は、3人で試合に出られるだけで十分でした。でも、後輩が入ってくると、もっと楽しくなりました。後輩とおしゃべりをしたり、修学旅行のお土産を渡したり、そのようなことで更に高校生活が充実していったことが、とてもうれしかったです」（鈴木さん）

男女合わせて7人の部員は、学年・性別を問わずとても仲が良い。だが、練習が始まると表情は一変する。いち早く札を奪うために、詠み上げられる上の句に耳を澄ますその瞬間、部員たちは「全

ての音が消える時」と表現する。

「全国レベルの選手の中には、詠み上げる前の詠み手の息の吸い方で、最初に発する音が『あ』なのか『か』なのかを区別できる人がいます。音になる前の音を聞き取れることを、私たちは『感じが良い』と言っています」（西野さん）

コンマ何秒かで音を聞き取り、素早く札を取る競技かるたでは、「練習も大切だが、才能も重要」と部員たちは説明する。競技かるたに熱中するほど、「自分の限界」を感じ、苦悩することもあるからこそ、自分なりの目標が重要だ。

「高校から競技かるたを始めた私は、先輩たちのレベルには高校3年間では追い付けないかもしれない。でも、3枚しか取れなかった札が、5枚取れるようになったら、同じ負けでもやはりうれしいです。だから、自分の目標をしっかりと持って、楽しみながら上達したいと思っています」（服部さん）

教師の  
思い

集中力と

粘りの精神力で

人生を切り開いてほしい



福井県立藤島高校  
武川英雄

たけかわ ひでお  
教職歴31年。同校に赴任して8年目。  
生徒指導部長。

### 驚くほどの生徒の 集中力と体力

競技かるたの1試合の時間は1時間30分ほど。大会では食事や休憩の時間も十分に取れないまま、1日に5、6試合をこなすこともあります。私は普段は運動部の顧問を務めており、競技かるたに詳しいわけではありませんが、それでも、これだけの集中力と体力が求められる競技は少ないと思います。しかも、試合ごとに異なる50枚の札の並びを、15分という短い時間でゼロから覚え直さなければいけません。生徒たちの記憶力、集中力には、ただただ感心します。

### 競技かるたで培った力は 人生の勝負の時に役立つ

かるた同好会に所属している生徒は、学



個人競技のように思える競技かるた。だが、団体戦になると「仲間もがんばっている」という一体感が、一人ひとりの集中力を更に高めてくれると部員たちは言う。

「1年生の2人は経験者で強いのですが、新部長の僕が実力を上げないと駄目です。全国大会に出場できるかどうかは、自分の上達レベルに懸かっていると思います」(落井さん)

## 「同好会でも強い」は 藤島高校の誇り

競技かるたを通して身に付いた力として、部員たちは一番に「集中力」を挙げる。

「競技かるたで身に付いた集中力は勉強にも生きるし、他のスポーツをする時にも役立っています」(岡田さん)

「暗記力も付きました。部活動の吹奏楽で楽譜を

覚える時も、頭にすっと入ってきます。勉強も暗記ものは大好きです」(戸川さん)

同好会を復活させたメンバーの1人、五十嵐さんは「最後まで全力を尽くす気持ち」を挙げる。

「礼に始まり礼に終わる競技かるたでは、勝敗が明らかになったからといって、試合を途中で諦めるのは相手に失礼ですし、最後まで勝負を投げ出さなければ、いつも以上の力が出ることもあるのです」(五十嵐さん)

3年生3人が卒業しても、残ったメンバーの目標はもちろん全国大会出場、そして上位進出だ。「勉強を言い訳に自宅練習をサボることはもうしない!」(服部さん)と、皆気持ちを引き締める。「同好会でも強い藤島高校」は、生徒たちの誇りになっている。

### かるた同好会

2014年度部員

3年生

鈴木裕加里  
すずき・ゆかり

3年生

五十嵐遥  
いがらし・はるか

3年生

西野涼希  
にしの・すずき

2年生

落井真史  
おちい・まことみ

2年生

服部聖加  
はっとり・せい加

1年生

岡田英介  
おかだ・えいすけ

1年生

戸川琴貴  
とがわ・ことみ

※学年は2015年3月時点のものです

校の成績も優秀です。それは記憶力や集中力はもちろん、窮地に立たされても諦めず、何とかしようとする粘り、自分をコントロールして戦い続ける力を、競技かるたを通して身に付けているからでしょう。そうした力は将来、「ここだけは譲れない」という人生の勝負の場面においても、きっと生徒たちの力となってくれるはずです。

福井県はかるた王国と呼ばれるほどの土地柄で、同好会の中にも幼少の頃からかるたに親しんできた生徒がいます。この先、同好会の生徒の中から、様々な形で地元のかかるた文化にかかわっていく人材が出てくることでしょう。高校時代に情熱を燃やした競技かるたで、郷土・福井の発展に貢献し、自分を輝かせることが出来るのは、とても素晴らしいことだと思います。

### 福井県立藤島高校

◎福井藩の藩校「明道館」を前身とする。2014(平成26)年度に「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の3期目の指定と同時に、「科学技術人材育成枠」の指定を受け、グローバル社会をデザインする国際性豊かな「21世紀を担うリーダーの育成」に取り組む。

◎設立 1855(安政2)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約340人

◎2015年度入試合格実績(現浪計)

国立大は、東京大、京都大、大阪大、金沢大、福井大などに257人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ473人が合格。

◎URL <http://www.fujishima-h.ed.jp/>